

発行：上田高等学校同窓会 中南信支部事務局
題字：松岡翠風(仁太郎)氏 南安壽在住(39期) 全日展書法会副会長 他

会員の皆様へ 支部長 菅谷



同窓会員の皆様方におかれましては、それぞれにご壮健にてお過ごしのことと拝察致しております。

昨年度の支部総会において、中南信支部の支部長の重責を担うことをご承認いただき、新役員諸氏のご助力の下、会の運営に努めているところでございます。

就任当初、小林茂昭前支部長より引継ぎの際、いくつかの懸案事項に関する報告を受けました。その中で、喫緊の課題は、会の事業運営における財政状況の問題でありました。これまでの財政内容の実態では、様々な面で大変ご苦労されている説明がありました。早速、毎月開催される幹事会におきまして、顧問の方々のご助言も参考にしつつ、慎重に検討を重ねて

まいりました。併せて、他支部の現況等についても調査をさせていただきました。その結果、当中南信支部の財政基盤を持続可能なものとし、今後、より一層の充実強化を図るため、会員の皆様より年会費を徴収させていただくという、会費制の導入を提案し、去る九月二十三日開催の拡大幹事会におきまして、この件につきご承認をいただいたところでございます。会員諸氏におかれましては、何かと大変かとは思いますが、支部同窓会の維持・発展のため、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。ご参加の折には、普段着のままの言葉

その他の事情にもよるのでしようが、全会員数の一割程度であります。全国至るところ、各種団体や組織による会では、参加者、特に青壮年世代の数が減少傾向にあります。まさにわが国の世相の一段面を具現しており、会の運営を司る立場にある者の共通の悩みかとも感じております。

本支部の基本理念として、「青春の一瞬時、同じ環境を経験した者のみが知る感性を共有し、個々の人生を淡々と語り合う場としたい」とありますように、来る11月10日(土)開催の支部総会では、大勢の会員のご出席を期待しております。ご参加の折には、普段着のままの言葉で、老若の同窓諸氏が、失いつつある「何か」を求め、それが日々の暮らしや生き方、教育・文化、更には政治・経済・社会問題等、広範な話題に花が咲く、そんな前向きな会となりますことを切に願っております。

～第14回支部総会のご案内～

日時：11月10日(土)

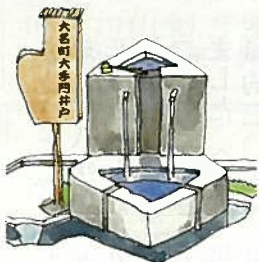
13:30 開場
14:00～15:45 第一部：総会・講演
16:00～18:00 第二部：懇親会

会場：松本ホテル花月

松本市大手 4-8-9 電話 0263-32-0114

会費：¥8,000 (学生半額)

第一部のみ参加される方で、'07年度支部年会費千円を払われている方は無料です
返信葉書で出欠をお知らせください



大名町大手門井戸 (平成19年4月完成)

記念講演 「舞台芸術のビジネス」 関田正幸氏(63期) (株)ジャパン・アーツ副会長



(株)ジャパン・アーツは日本有数のクラシック音楽のコンサート、オペラ、バレエ公演のプロデュース、プランニング会社です。
日本で、このようなクラシック音楽・舞台芸術をビジネスにしていけることは簡単ではありません。
その36年間にわたる体験、現在にいたるまでのエピソードを、ざっくばらんにお話しいただく予定です。

略歴
1965年 上田市出身 上田高校卒業 東北大学法学部入学
1971年 (株)日本電波ニュース社入社
1976年 (株)ジャパン・アーツ創立にともない同社入社 企画部長、専務取締役
1995年 同社代表取締役
2007年 同社取締役副会長 (株)ジェスク音楽文化振興会専務理事
他に (社)日本クラシック音楽事業協会 副会長 国際音楽マネージャー協会 名誉会員

職場訪問 県職員の方



大日方正明さん

今回は、県の職員の方を訪ねました。
最初に伺ったのが、松本合同庁舎内の地域政策課長、大日方正明さん(73期)。今回県職員の職域幹事をお願いした方です。市町村の行政に携わることをはじめ、交通政策や旅券、防災、危機管理まで幅広い業務を担当しています。

上水内の中条村出身で、高校時代は馬場町に下宿しながら「体力使わないかな」と思いついた弓道班で、二年生の時に国体県代表で北信越大会出場。この弓道は中央大学経済学部入学後も継続し、大学選手権には二、三、四年と団体選に出場し、二年生と四年生で全国制覇。大学表彰の金杯も授与されました。就職後は長らく休んでいたものの、退職後に備えて今年から長野県弓道連盟に加入したそうです。大学一、二年の狭い合宿所で多くの先輩との暮らしが、一番苦しい経験が、その後のもの見方や考え方の礎となったそうです。

かつての時期のようで、三年で一人暮らしになりホッとした。それも束の間、その後県職員になって最初の三年は二人部屋の寮だったそうです。県では、ほぼ二、四年で異動するのが一般的のようで、長野県教育委員会を最初に、東京事務所を含め、県庁、松本・諏訪地方事務所、信濃美術館などを経験し、今年から松本地方事務所に出向したそうです。一番の失敗の思い出は、平成九年ころ、議会事務局に勤務していたころ、「書類を配布し忘れて議会をストップさせたことかな」とおどやかに話しながら、「弓道の試合での緊張感とは他では感じることがない」と、やさしい風貌ながら内に秘めた強さを感しました。

次に、松本合同庁舎の四人の同窓生の中から、税務課長の林信一さん(74期)にお会いしました。坂城町の出身で、野球を中学時代からやっていた。同級生に誘われ野



林信一さん

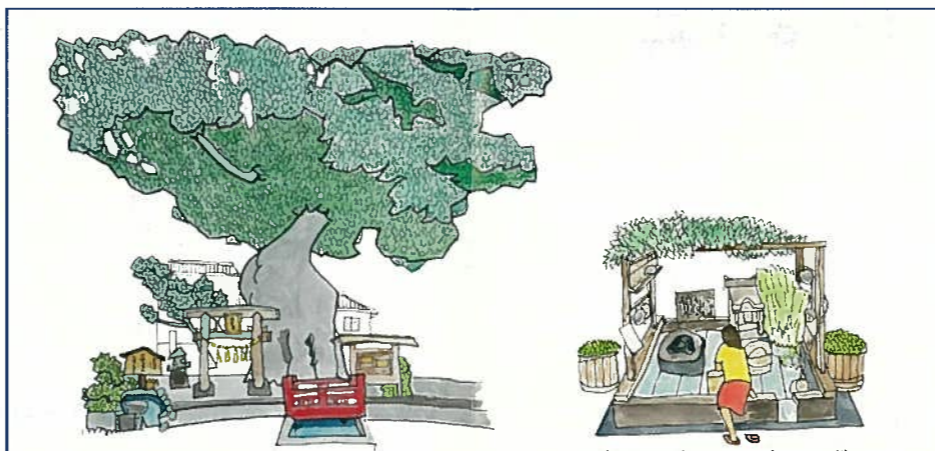
球班に気楽に入ったものの、人数が少なくてやめるにやめられなくなつた」とのこと。ポジションはセカンド、当時はたしかベスト16。東北大学経済学部へ進学したときは、野球ではなく、「青葉城恋歌」がはやっていたころの仙台で勉強にいそしめたそうです。今でも野球班との交流戦を実施しているようです。

お二方とも、長男ということもあって県職員を選択。林さんの一番の思い出は、「しなの鉄道」をゼロから立ち上げたこと。県職員には珍しく八年間を連続して同じ職場にとどまり、平成五年から「対策室」(会社設立「開業」運営)までを担当しました。会社発足当時、社員約三〇人が、県とJRから半々の出向。開業日程だけは決まっていたものの、一般会社の経験・認識がないメンバーが多く、「とにかく現実に対応することが大変だった」と語ってくれました。細身の体の中に秘めた情熱。県も会社も「欠かせない人物」としての扱いだったんですね。次は、お二人の課長さんより、ずっとえらい方(課長でも十分えらいんです)。

県職の要、会計局のトップである会計管理者(以前で言えば出納長)の山極一雄さん(64期)にお会いしました。(山極さんは本同窓会長野支部の副支部長も務められています。)

山極さんは西塩田村生まれ。塩田中学時代はバレーボール部、高校でもバレーボール部に入りました。当時は上田と松商の二強時代で、練習の厳しさを鮮烈に記憶されているとのこと。とにかく一年生に対する先輩の扱いがキツ

画 武村洋治(58期)



槻井泉神社の湧水(つきいずみじんじや)

女鳥羽の泉(めとばのいずみ)

松本水巡り

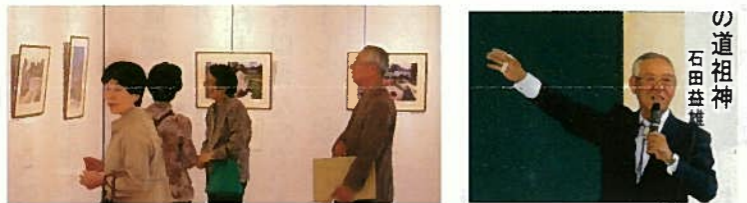
県内の様々な地域で業務に携わってきた山極さんですが、県事務所(当時県内に四事務所・昭和六十一年に発展的解消)の中南信事務所時代に、思い出に残る多数の経験をされたそうです。県事務所は市町村経営のサポート・アドバイスを担当していた。中南信事務所は四十五の市町村を抱える県内最大の事務所、仕事量の多さもさることながら役職者でない者の発言でも市町村議会の議事録に氏名が残り、その重みを感じながら業務にあたってきたそうです。

をくたいてきたことを感じ取ることができた。穏やかな物腰の中に、時々は出勤途中の知事をつかまえ、行政施策の説明と了解をとりつける行動力をもって業務にあたり、これからの県行政を担当

う前出の大日方さん、林さんを始めとした県職員の皆さんにも息づいているものと確信しました。

石田益雄写真展 安曇野の道祖神

～心のふるさと原景～
碌山公園 研成ホール '07/4/29~5/29



安曇野市穂高の碌山美術館南に、市営の碌山公園(1.7ha)と研成ホールが4月22日の「碌山忌」に完成し、その「柿(こけら落とし)」に、安曇野市から依頼があり、同市主催でカラー写真A3ノビ46枚、モノクロ2枚、拓本5枚の計53点を展示しました。

5月の大型連休を含めた約1ヶ月の会期中に、南は岡山県・京都府・大阪府から、北は宮城県・札幌まで、入場者は遠来の皆様を含めて2,800余人に上りました。

この施設の指定管理者である碌山美術館の関係者の皆様には、大変お世話になりました。最初の催しとして、開催内容と観覧者数にご満足いただけたようで、依頼を受けた者としての重責を果たせたことに安堵しております。

安曇野市 石田益雄(54期)
石田さんの研究がNHK「美の壺」で紹介される予定です。
10月19日(金)午後10時~10時25分NHK教育、その後BSで再放送が予定されています。(事務局追記)

会費制導入のお願い

謹啓
冒頭の菅谷支部長のご挨拶にもありますように、支部財政は逼迫しております。3年前には赤字決算を幹事会負担で乗り越えました。
この支部財政を打開して、より健全な活動をするため、会費導入をさせていただきます。9月23日開催の拡大幹事会議にて、下記のとおり提案・確認させていただきました。
内容をご理解頂き、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

会費制の導入…年会費として千円

- *参考までに、他支部の状況ですが、関東・関西同窓会ともに、年会費2千円、総会費8千円です。
- *現状 収入…支部総会に参加者から、通信費込みで8千円、支部総会第一部のみ出席の方は千円。主な支出は、総会費、会報発行・郵送費。
- *会報に関しては、「会報など不要、連絡も不要」というお声があったことは事実ですが、「懐かしい会員の動向等がわかり、毎年楽しみにしている」という多数の返信ハガキがあります。会報と総会の記念講演会は、中南信支部の特長でもありますので、ぜひ継続したいと思っております。会報はすべて手作りで、印刷だけは印刷所をお願いいたしますが、今までは折込・封筒入れ・ラベル貼り・発送をすべて手作業で実施。
- *会費制導入の理由…従来の総会収入と実費の差額で会報印刷費・通信費を賄う方式では、たちゆかぬ現状で、幹事会で浮かせて補填するやり方や立替払いも限界にきていると思われま

この状況をご理解いただき、同封の振込用紙で年会費千円のご協力をお願いいたします。総会当日現金でもかまいません。よろしくお願ひいたします。尚、学生さんは無料とします。



山極一雄さん

イ。屋外のコートで何十周ものうさぎ跳びばかりやらせられ、ボールにさわらせてもらえませぬ。練習中に水を飲むなど言語道断でしたが、練習終了後のコートの水撒き(一年生の役目)でバケツに汲んだ(普段飲むような人はいないであろう)水を見張りのマネージャーの目を盗んで手にすくって飲んだそうです。

家庭の事情で就職の進路を選び、県職員募集に応募、合格。上田保健所が最初の職場となり、高松時代の裸足に下駄姿で仕事をしていたら、上司から「靴が買えないのなら買ってやる」と心配されてしまったこともあったそうです。もちろん辞退し、翌日から靴履きで出勤したそうです。

心に残っているのは、二十歳から四年間とその後少し間を置いてまた四年間携わった福祉関係の業務だということです。恐らく当時の県職員の中で最も若いケースワーカーであったであろうとのこと。若い時に社会的弱者と直接の関わりをもて

以上

宮沢行文(48期)

スポーツクラブ・マレットゴルフ、囲碁、佛道修行、信州ゴルフデンキキャスル応援などしています。

沓掛文哉(54期)

一昨年は坂城小学校五年生の就学旅行時から五十五年振りに松本城の階段を登りました。

上田は勿論ですが、松本も大好きです。

吉村哲郎(66期)

とうとう東京単身赴任十二年目を迎えました。ゴルフシーズンはよりこまめに東京と松本を往復する生活をしています。



定年後の二十四時間奥様と一緒にの生活を考えると今から不安で胸が高鳴ります！

吉澤要(70期)

長野県の医師不足は深刻です。医師集めに奔走しています。

山浦敏(71期)

昨年の四月から全農長野県本部からの出向で、新しい職場にあります。

相変わらず長野市のJA長野県ビルでの勤務であり、長野市への単身赴任も九年目となりました。

五十嵐俊一(82期)

昨年九月から東京都日野市に単身赴任となりました。日野は東京の中でも田舎なので、すぐに環境には慣れました。(梨畑がたくさんあります。)

沓掛隆(82期)

安曇野市三郷に住んで九年経ちます。ようやく落ち着いて、好きな絵も描けるようになり、地元三郷美術会にも入れてもらっています。中興美術展や長野県美術展にも出展していますが、なかなかよい絵は描けません。

小林弘幸(100期)

昨年四月に八十二銀行松本営業部に新入行員として入行しました。銀行業務の他にも社会人としてのマナー等、毎日勉強の日々を過しています。

鼻から胃カメラ体験記

田中穂積(65期)

人間ドックをそろそろと思いつつ胃の検査は嫌だなとぐずぐずしていた昨年十月頃、同窓会の二次会で隣の小笠原仁さん(87期)に「最近酒を飲むと時々胃が痛くて」などと酒飲み話をしたところ、なんと彼はあざみ胃腸科クリニックの先生でした。「胃カメラはいやだし～」と言ったとたん「大丈夫、鼻があるよ」と鼻から胃カメラの話をしてくれました。

十二月初旬松本から下諏訪のあざみ胃腸科クリニックに、市場に引かれる子牛の気分で出かけました。お医者さんらしからぬ小奇麗な建物に気がつかず、前を行ったり来たり、中へ入ると庭には足湯が。少し嬉しくなって気分がリラックス。その効果も手伝い麻酔も効いて、鼻からのカメラも難なく胃に到着「大丈夫きれいです」との言葉にほっとして足湯を楽しみました。

ところが「田中さんチョット」の声で目を覚まされて診察室へ、「岡谷病院で精密検査を」のご宣託。おろおろと検査を受けるとなんと肺炎とのこと、薬の処方と専門医を紹介してもらい幸いにも一ヶ月で完治することが出来ました。小笠原先生感謝です！

ズーンズーンという感じは少ししますが、口からに比べとってもスムーズな鼻から胃カメラで肺炎が見つかりました体験記でした。

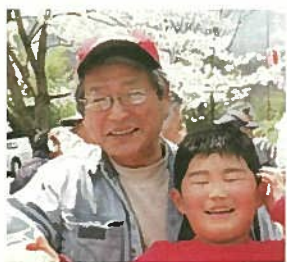
独鈷山千本桜の会

滝澤弘一郎(62期)



千本桜の会の皆さん:母袋上田市長(70期)を囲んで

十年前、村おこしとして「独鈷山千本桜の会」を立ち上げました。この地は信州百名山の一つである名峰独鈷山の南麓の陽当たりが良いなだらかな地形で、御屋敷という由緒ある地籍です。真田昌幸の四男、昌親(信忠・



お孫さんと

幸村の弟)が慶長元年(一五九六年)から元和四年まで、二十三年間居住していた居館跡の地です。すでに吉野桜を中心に千本以上を植えており、その一部をオーナー制にして一五〇人位の参加を得ています。(野球解説者の江川卓さんや俳優の菅原文太さんも参加されています。)百年後に十本、二百年後に五本、三百年後に三本位、生き続けて欲しいと夢を見ながら手入れをしています。桜守がライフワークです。毎年四月第三日曜日が桜祭りですので参加をお待ちしています。

職域幹事追加のお知らせ

- 阪上孝氏 (67期、岡谷警察署 警察関係)
- 大日方正明氏 (73期、松本地方事務所 県職員関係)
- 龍野武利氏 (76期、信大付属小学校 教職員関係)